

「沖縄の染と織の至宝－桃原用昇コレクション 八重山展－」に寄せて

沖縄美ら島財団は、「美らなる島の輝きを御万人（うまんちゅ）へ」という経営理念のもと、沖縄の豊かな自然、文化、歴史を「島の幸」と捉え、これらを基にした調査研究や技術開発を行い、その成果を地域、そして国内外で普及・啓発し、過去から受け継がれた「美ら島」の輝きを現代から未来へと繋げていくことを目指しています。

当財団では、平成 4（1992）年より、琉球王国に関わる美術工芸品資料を収集しています。特に紅型や織物の染織品資料についても、その修理及び復元製作を積極的に取り組んでおり、これらの資料の文化遺産としての価値を高め、沖縄の豊かな文化を後世に伝えるための努力を続けています。

その一環として、昨年 10 月から 11 月にかけて沖縄県立博物館・美術館で開催された当財団主催の企画展「沖縄の染と織の至宝－桃原用昇コレクション－」は、多くの方々から高い評価を受けました。この成功を活かしながら、今年は石垣市及び石垣市教育員会の主催にて「沖縄の染と織の至宝－桃原用昇コレクション 八重山展－」を新たに開催することとなりました。

本展では、昨年の企画展示の 87 点からさらに展示規模を拡大し、114 点の作品を展示いたします。これらの作品は、桃原用昇氏の 21 年間にわたる懸命な収集活動の成果であり、沖縄の文化遺産を未来へ継承するための重要な役割を果たしています。特に、桃原氏の故郷である石垣市での展示は、地域にとって非常に意義深いものです。本展には、石垣市初代名誉市民で人間国宝の鎌倉芳太郎氏の型絵染作品、同じく名誉市民で人間国宝の玉那覇有公氏の紅型作品、そして今年 7 月に新たに人間国宝に指定された石垣市在住の新垣幸子氏の八重山上布作品を含む、7 名の人間国宝と 2 名の県指定無形文化財保持者の作品が展示されています。

本展を通じて、八重山および沖縄の豊かな染織文化への理解を深め、これを未来へと継承する機会となることを願っています。

最後に、本展の実現に尽力されたすべての関係者の方々、特に桃原用昇氏に心からの感謝の意を表します。どうぞ、各作品に込められた技術と美の細部にご注目いただき、沖縄の染織文化の奥深さを存分にご堪能ください。

令和 6 年 10 月吉日

一般財団法人沖縄美ら島財団

理事長 湧川 盛順